授業科目名	人間関係論	担当講師名	高橋　千津子
開講時期	2 年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	看護にとって重要な人間関係について学ぶ。人間関係の発達や対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、精神病理やその治療法などを学ぶことで、実際の人間関係や看護場面で応用できる臨床的な心理学的知見や技術を身につける。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	人間関係の意義―人間とは	野生児研究、生理的早産児、看護と人間関係、愛着、エリクソン等	講義
2	人間関係の社会心理―対人認知	対人認知、印象形成等	講義
3	対人魅力	近接性、類似性、相補性、他者からの評価、つり橋効果等	講義
4	原因帰属	原因帰属、ワイナー、帰属の誤り等 水口式内的外的統制診断票	講義 実施
5	ノンバーバルコミュニケーション	顔の表情、アイコンタクト、姿勢、身ぶり手ぶり、接触行動、準言語	講義 実技
6	ノンバーバルコミュニケーション	対人距離、面接時の座り方 感情的コミュニケーション検査	講義 実施
7	カウンセリングの技法	アイコンタクト、うなずき、相づち、くり返し、ユマニチュード	講義 実技
8	感受性訓練(sensitivity training)	自律訓練法、漸進的筋弛緩法、 カウンセリングウォーク等	実技
9	心の障害とその治療―ストレスと不適応	ストレス、不適応、PTSD、コーピング 防衛機制、欲求不満耐性等	講義
10	精神病理	統合失調症、双極性障害、不安障害、恐怖症、強迫性障害、解離性障害等	講義
11	精神病理	PTSD,解離性同一性障害等 エゴグラム	ビデオ 実施
12	治療の理論と技法―心理療法	来談者中心療法、精神分析、交流分析、認知療法、箱庭、遊戯療法等	講義
13	行動療法	系統的脱感作療法、曝露反応妨害法 消去療法、認知行動療法、SST 等	講義 実技
14	攻撃性と虐待	攻撃の理論、攻撃行動のコントロール 児童虐待、攻撃性尺度	講義 実施
15	まとめとテスト範囲	学習性無力感尺度 テスト範囲	実施 講義

評価方法	筆記試験
教科書	ワークショップ　人間関係の心理学（ナカニシヤ出版）

授業科目名	教育学	担当講師名	上田勝江
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	本講義では、いじめ、子どもの虐待などの教育の課題が、社会の変容とともにいかに変化してきたのかを具体的な事例を取り上げながら学びます。 　この授業を通して①教育に関わる知識を深め、②多様な視点を持って考えるようになることを目標とします。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	オリエンテーション 授業の進め方、学校体験を振り返る	学校体験	講義
2	学力の在り方の変遷	受験地獄、ゆとり教育	講義 DVD
3	ジェンダーと教育（1） 学校でのジェンダー形成とは	ジェンダー形成、トラッキング	講義
4	ジェンダーと教育（2） 家族と子どもの在り方の変化	性別役割分業、男女共同参画社会	講義
5	家族と子育てと子ども虐待（1） 虐待はなぜ起こるか	虐待の四つの形態	講義
6	家族と子育てと子ども虐待（2） 具体的対策を学ぶ	虐待の起こる家庭背景	講義
7	不登校問題 学校は行かなければならないところ？	登校拒否、不登校	講義
8	少年非行 現代の少年は凶暴になったのか？	少年法、児童相談所、暗数	講義
9	子どもの貧困（1） 貧困の子どもの成長への影響	OECD、ひとり親家庭	講義
10	子どもの貧困（2） 事例から背景と対策を考える	子どもの居場所、子ども食堂	講義 DVD
11	いじめ問題（1） いじめの定義の変化と現状	いじめの４層構造、ヴァルネラビリティ	講義
12	いじめ問題（2） いじめが起こる背景とは何か	鹿川君事件	講義
13	子どもの対人関係の変容	親密圏、公共圏	講義
14	マイノリティと子どもの教育問題	マイノリティ、ニューカマー、オールドカマー	講義 CD
15	これまでの復習		

評価方法	・毎回の提出物と授業参加度・・・50 点（コメントカードの内容、授業およびグループワークへの参加、課題提出 2 回） ・期末テスト　　・・・・・・40 点
教科書	毎回レジメを配布

授業科目名	社会福祉Ⅱ	担当講師名	佐伯　香織
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	福祉の視点を理解し、看護師としての専門性をより理解できる、また多職種連携といった他分野との実践を意識することを目標とする。その為に、講義だけではなく、演習（ディスカッション）を通じ、クライエントから「聞く・学ぶ」力だけでなく、クライエントに「伝える」力を得る事も目標とする。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	現代社会の動向と社会福祉	人口動態・家族、地域の変化など	講義・演習
2	社会福祉の法制度 ～福祉の成り立ちと仕組み～	福祉六法・措置と契約など	講義・視聴
3	高齢者を支える１ ～介護保険制度を中心に～	介護保険制度・ケアマネジメント	講義・演習
4	高齢者を支える２ ～高齢者をとりまく社会～	認知症施策・介護予防・地域包括ケアシステムなど	講義・視聴
5	貧困・低所得者支援 ～貧困と生活困窮者～	公的扶助（生活保護）・生活困窮者支援	講義・視聴
6	生きづらさを支える現場 ～状況設定問題から見える社会問題～	依存症・DV・虐待などへの支援	講義・演習
7	医療と福祉を支える専門職 （事例を通じた前半振り返り）	多職種連携の他、前半の総復習	講義・演習
8	「障害」とは何か ～障害者の定義と関係法規～	3 障害・発達障害・障害者施策など	講義・視聴
9	障害者を支える人々と仕組み	障害者総合支援法・雇用・合理的配慮など	講義・演習
10	子どもと家庭を支える１	母子保健法・児童福祉法など	講義・視聴
11	子どもと家庭を支える２	児童虐待・児童相談所・子どもの権利など	講義・演習
12	社会福祉援助の理論と方法 ～医療と介護における検討課題～	訪問看護・ACP・成年後見制度など	講義・視聴
13	社会福祉援助の理論と方法 ～信頼関係を築くために～	バイスティック７原則・対人援助技術など	講義・演習
14	事例検討１ ～高齢者・生活困窮者　篇～	事例検討（介護保険制度・公的扶助）	演習
15	事例検討２ ～こども家庭・障がい　篇～	事例検討（子ども・障害者への支援）	演習

評価方法	原則、前半終了後の小レポート（20%）と終了テスト（80%）としますが 授業終了後の振り返りシートによる授業参加度も評価対象とします
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉（医学書院）

授業科目名	社会保障論	担当講師名	竹元　志保
開講時期	２年次　前期	単位及び時間数	1単位 16 時間
授業の目標及び概要	この授業では、社会保障制度の目的、機能、範囲、歴史、組織、財政等について学習する。看護の対象となる人を支えている社会保険制度について概観をつかんだ上で、特に仕事で必要となる医療保険、介護保険についての理解を深めることを目指すものとする。		

回	授業内容	キーワード	備 考
1	イントロダクション 社会保障の理念・目的・体系	生存権・1950 年勧告・社会保障の体系	
2	保険の原理と公的保険の役割	保険の原理 公的保険の概要 民間保険と公的保険の役割の違い	
3	医療保険①	診療報酬・保険者と被保険者	
4	医療保険②	保険給付の内容	
5	介護保険①	保険者と被保険者 要介護認定	
6	介護保険②	保険給付の内容 医療保険と介護保険の関係性	
7	年金保険・雇用保険	保険者と被保険者 保険給付の内容 公共職業安定所	
8	労働者災害補償保険	労働者災害補償保険と医療保険の関係 労働基準監督署	

評価方法	平常点（リアクションシートの内容と授業参加度）30 点 小テスト２回（10 点×２回＝20 点） 最終テスト 50 点
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉（医学書院）

授業科目名	関係法規	担当講師名	高橋　育美
開講時期	2年次　後期	単位及び時間数	1単位　16 時間
授業の目標 及び概要	看護職を取り巻く行政法・社会法の分野は、国民のニーズの変化に伴い日々変化しており「看護」の現場において医療法規の解釈は看護業務の適切な履行、事故防止と事故の対処において重要な要素である。加えて看護に従事する者が国民の健康を守り、職責を正しく遂行するために、看護関係法規の理解は重要である。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	法の概念	法律の概要、衛生法	講義
2	看護法Ⅰ	厚生労働行政のしくみ、WHO 保健師助産師看護師法（1）	講義 ＤＶＤ
3	看護法Ⅱ	保健師助産師看護師法（2） 看護師等の人材確保に関する法律	講義 個人ワーク
4	医事法Ⅰ	医療法（1） 沿革、医療安全、開設、人員、 医療過誤　等	講義
5	医事法Ⅱ	医療法（2） 医療計画　等 医療関係者資格法	講義
6	保健衛生法 分野別保健法Ⅰ	地域保健法、健康増進法 精神保健福祉法　等	講義
7	分野別保健法Ⅱ	母子保健法、母体保護法、感染症法、 食品に関する法　等	講義
8	労働法・環境法	労働基準法、労働安全衛生法、個人情報保護法、環境基本法　等	講義

評価方法	筆記試験
教科書	系統看護講座　専門基礎　看護関係法令（医学書院） 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法（日本看護協会出版会） 図説　国民衛生の動向　2022/2023

授業科目名	看護研究Ⅰ	担当講師名	高岡　操
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1単位　15時間
授業の目標及び概要	看護理論の変遷を学び、看護理論家を通じて看護の本質とは何かを考える姿勢を身につける 看護研究の基礎的知識を学び、看護実践を通じて研究的視点を広げる		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	看護理論とは 看護理論の歴史と変遷 理論の重要性・看護理論の分類	看護理論の誕生 理論の発展過程 概念モデル・大理論 中範囲理論・実践理論	講義
2 3 4	主な理論家とその理論概要 (1) Ｆ・ナイチンゲール (2) Ａ・ウィーデンバック (3) Ｖ・ヘンダーソン (4) Ｄ・Ｅオレム (5) Ｈ・Ｅ・ペプロウ (6) Ｊ・トラベルビー (7) Ａ・Ｊオーランド (8) Ａ・Ｅ・ロジャース (9) Ｐ・ベナー	看護覚え書 臨床看護の本質 セルフケア 基本的ニード 人間関係理論 看護の探求	文献学習 グループワーク 発表
5 6 7 8	研究的取り組み (1)ＥＢＮ　根拠に基づいた看護実践 (2)看護研究における倫理的問題と対応 (3)文献検索について (4)看護研究の方法 (5)研究計画書の書き方 (6)発表論文の書き方	研究の意味、ＦＢＮ、研究になるもの、ならないもの 生命倫理、インフォームドコンセント、個人情報保護、 モラル研究デザイン、 研究計画書、 ケースレポートの構成、 ケーススタディ	グループワーク 講義
まとめ	基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者の看護実践を振り返り、看護の本質を考察する。　（レポート課題、発表）　※教科外活動		個人ワーク 発表

評価方法	筆記試験　グループワーク等の発表　レポート
教科書	○看護理論　「看護理論20の理解と実践への応用」（南江堂） ○系統看護学講座別巻　「看護研究」　（医学書院） ○系統看護学講座　看護学概論　（医学書院）

授業科目名	地域看護　Ⅱ	担当講師名	薮本　初音
開講時期	２年次　後期	単位及び時間数	１単位　30 時間
授業の目標 及び概要	・　健康の保持増進や療養支援に必要な地域包括ケアシステムを学ぶ ・　地域・在宅看護における多職種連携と看護職の役割を考える		

回	授　業　内　容	キーワード	備　考
1 2 3	地域におけるライフステージに応じた看護 ライフステージごとの主な健康障害とその予防、看護を考える （妊産婦・乳幼児、学童、青年期、壮年期）		講義 GW
4	地域・在宅看護における多職種連携 組織間連携、職種間連携	地域ケア会議 在宅医療介護連携推進事業 地域包括支援センター 母子健康包括支援センター	講義
6 7	医療、福祉、介護関係者との連携 （1）行政の保健師の活動 ・母子 ・高齢者虐待、高齢者支援	外部講師調整中	講義
8	（2）社会福祉協議会の活動 ふれあい喫茶、食事サービス、成年後見 子育てサロン　地域見守り　他	外部講師調整中	講義
9	医療、福祉、介護関係者以外との連携 （1）民生委員の活動（相談、見守り）OR （2）認知症カフェ（子ども食堂）　他	外部講師調整中	講義
10 11	青年期・壮年期の社会生活と健康 自分自身の生活と健康課題を考える 働き盛りの生活と健康課題を考える		GW
12 13 14	事例を用いての多職種連携のまとめ 事例１：若年妊婦の支援 事例２：独居高齢者の介護予防的支援		GW
15	地域看護のまとめ	地域共生社会	講義

評価方法	筆記試験（60 点）　レポート（40 点）
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　（医学書院） 系統看護学講座　地域・在宅看護の実践　（医学書院）

（注）外部講師と調整の結果、講義の順番や内容が変わる可能性があります。

授業科目名	在宅看護概論	担当講師名	太田　和江
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	在宅看護に必要な基礎的知識と期待される在宅看護の役割と機能を考察することができる 1.在宅看護に必要な制度や法令を説明できる 2.在宅看護の概念を説明できる		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	Ⅰ　在宅看護の概念	在宅看護の対象　求められた背景 期待される役割	講義
2	Ⅱ　在宅看護の対象者 1)在宅療養者	療養者のとらえ方　特徴	講義
3	2)在宅療養者の家族の特徴と抱える課題	家族の定義　療養者のいる家族の特徴と課題	講義
4	3)家族アセスメント	家族システム理論　家族発達理論　家族危機理論　家族アセスメント理論	講義
5	Ⅲ　在宅看護にかかわる制度 1)介護保険制度・医療保険制度	介護保険法　医療保険法	講義
6	2)訪問看護制度	訪問看護制度　訪問看護ステーションの運営基準	講義
7	3)公費負担医療に関する制度	小児慢性特定疾病　医療的ケア児支援法　難病法	講義
8	4)障害者に関する法制度	障害者総合支援法	講義
9	Ⅳ　在宅看護の場とその移行支援 1)在宅看護の場	外来看護　居宅 地域密着型サービス	演習
10	2)移行支援	退院支援　ケアマネジメント	演習
11	3)在宅看護のマネジメント	訪問看護とケアマネジメント サービス契約	講義
12	Ⅴ　療養者の権利保障	意思決定支援と虐待防止	演習
13	Ⅵ　在宅看護におけるリスクマネジメント	自宅におけるリスク　災害の備え	講義
14	Ⅶ　在宅看護の機能と役割 1)訪問看護の独自性	病院看護と訪問看護	演習
15	2)在宅看護に求められる機能と役割	療養生活を支える意味と連携の必要性	演習

評価方法	筆記試験　90 点　授業参加度 10 点
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践（医学書院）

授業科目名	在宅看護方法論Ⅰ	担当講師名	太田　和江
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	訪問看護で提供される看護技術の基本的考え方とその実際の知識を習得する 1.在宅医療で用いられている機器や器具について理解することができる 2.在宅看護技術を提供するときの考え方がわかる		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	Ⅰ　在宅での看護実践の基本的な考え方	生活を支える　チームアプローチ パートナーシップ	講義
2	Ⅱ　在宅療養の安全を守る看護	起こりやすい危険の予防　訪問時のトラブル回避	講義
3	Ⅲ　在宅看護技術 1)　療養環境調整	住環境アセスメント 住宅改修	講義
4	2)　活動　休息の支援	姿勢　体位　睡眠　福祉用具 生活リハビリテーション	講義
5	3)　食生活の支援 (1)経口摂取	栄養状態のアセスメント　食のＩＡＤＬ　誤嚥予防　訪問管理栄養士	講義
6	(2)経管栄養法 在宅中心静脈栄養法	半固形化栄養剤注入法 CV ポート	講義
7	4)　排泄の支援	排泄アセスメント　尿道留置カテーテル　ストーマ　腹膜透析	講義
8	5)　清潔・衣生活	清拭　部分浴　洗髪　口腔ケア 入浴　訪問入浴	講義
9	6)　呼吸・循環の支援 (1)呼吸・循環機能の維持向上	呼吸リハビリテーション　排痰ケア 末梢循環促進	講義
10	(2)在宅酸素療法	HOT　酸素濃縮器　外出支援	講義
11	(3)在宅人工呼吸療法	HMV　気管カニューレ　NPPV　IPPV	講義
12	7)　在宅褥瘡管理　スキンテア予防	褥瘡予防マットレス　在宅褥瘡ケアチーム	講義
13	8)　薬物療法支援	誤薬予防　服薬支援機器	演習
14	Ⅳ　訪問看護のマナー	家庭訪問のマナーとモラル	演習
15	模擬訪問看護実習		演習

評価方法	筆記試験 90 点　授業参加度 10 点
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践（医学書院）

授業科目名	在宅看護方法論Ⅱ	担当講師名	太田　和江
開講時期	2年次　後期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	在宅療養生活の QOL を高め、より長く、継続させていくための看護を学ぶ 1.訪問看護過程の特徴を説明できる 2.在宅療養おける経過別、病態、障害の特徴に応じた看護が理解できる		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	Ⅰ　在宅療養の経過別看護の特徴	準備期　療養移行期　安定期 急性増悪期　終末期　終了期	講義
2	Ⅱ　在宅療養の経過、病態、障害に応じた看護　1)　医療的ケア児	医療的ケア児　緊急対応　就学 両親・きょうだいへの支援	講義
3	2)　脳卒中	地域包括ケア病棟　介護保険サービス	講義
4	3)　慢性閉塞性肺疾患（COPD）	自己管理　HOT　火災予防	講義
5	4)　筋委縮性側索硬化症（ALS） (1) 病態・障害の理解　意思決定支援	進行性難病 自律支援医療制度	講義
6	(2) 障害と QOL 支援	残存機能の維持　生活支援の重要性 重度意思伝達装置	講義
7	(3) アドバンスケアプランニング	人工呼吸器の選択を考える	演習
8	5)　パーキンソン病	オン　オフ　レポドパ　転倒管理 残存機能の維持	講義
9	6)　統合失調症	精神科訪問看護制度　クライシスプラン　ストレングス	講義
10	7)　認知症 (1) 認知症の在宅看護	IADL の確保　生活の維持	講義
11	(2) 家族介護者への支援	介護負担　レスパイトケア	演習
12	8)　がん終末期 (1) がん終末期の経過別在宅看護	在宅ホスピスケアチーム 緩和ケア病棟　家族介護者の調整	講義
13	(2) 在宅疼痛管理 臨死期と死亡直後のケア	麻薬管理　エンゼルケア	講義
14	(3) 家族介護者への支援	看取りの準備教育　グリーフケア	演習
15	Ⅲ　訪問看護過程の特徴	情報源と情報収集　アセスメント 看護の方向性　目標　評価	講義

評価方法	筆記試験 80 点　授業参加度 20 点
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践（医学書院）

授業科目名	在宅看護方法論Ⅲ	担当講師名	太田　和江
開講時期	2年次　後期	単位及び時間数	1単位　16 時間
授業の目標 及び概要	訪問看護過程の特徴をふまえた看護計画立案ができる 1. 在宅看護におけるアセスメントの方法と方向性を理解する 2. 生活の視点で考えた支援計画が立案できる 3. 在宅ケアのネットワーク構築の必要性が理解できる		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	Ⅰ　訪問看護の特性	訪問看護過程とケアマネジメント	講義
2	Ⅱ　訪問看護におけるアセスメント 1）機能的健康パターンⅠ～Ⅳ	情報収集の方法とアセスメントの方向性 療養者と家族　ケアチーム 他施設のサービス提供者との連携 社会資源の利用状況 在宅療養生活の成立度	演習
3	2）機能的健康パターンⅤ～Ⅶ		演習
4	3）機能的健康パターンⅧ～Ⅺ		演習
5	Ⅲ　訪問看護における 看護計画立案と評価	長期目標　短期目標 訪問看護計画の限界	演習
6	Ⅶ　在宅療養支援計画	暮らしや療養生活での困りごと 在宅療養生活を豊かにする	演習
7			演習
8	Ⅳ　在宅ケアチームと 支援ネットワークの構築	社会資源　フォーマルサービス インフォーマルサポート	演習

評価方法	レポート（看護計画立案および支援ネットワーク）　70 点 授業参加度（支援計画発表を含む）30 点
教科書	ゴードン 看護診断マニュアル　（医学書院） 系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践（医学書院）

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ	担当講師名	①高田　紳吾　②樋口　雄之助
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1単位　30時間
授業の目標及び概要	1.急性・重症看護をもとに、生命の危機状況への支援、合併症の予防、回復への援助について学ぶ 2.疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ		

回	授業内容	キーワード	備考	
1	急性・重症看護の特徴	急性期の特徴と急性期にある人の特徴	講義及び演習	高田
2		アギュララ・フィンクの危機理論		
3		急性期看護の特徴と役割		
4	呼吸機能低下のある患者の看護	呼吸器の構造と機能、検査・治療の看護 （呼吸機能検査と血液ガス分析、胸腔ドレナージ）		
5		肺腫瘍患者の看護、気胸・開胸手術		
6		呼吸機能低下のある患者の看護 （呼吸機能のアセスメント、看護過程） ※慢性閉塞性肺疾患の事例展開		
7				
8	虚血性心疾患患者の看護	虚血性心疾患を持つ患者の看護 解離性大動脈瘤、動脈閉塞症		
9				
１０	不整脈のある患者の看護	不整脈のある患者の看護 弁膜症		
１１	心機能低下のある患者の看護	心機能低下のある患者の看護 （循環機能のアセスメント、看護過程） ※心不全の事例展開		
１２				
１３				
１４	救急看護	二次的救急処置（ACLS）、ショックへの対応 急性膵炎、熱傷、気道熱傷、一酸化炭素中毒	講義及び演習	樋口
１５				

評価方法	筆記試験　配点①90点　②10点
教科書	系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①（医学書院） 系統看護学講座　呼吸器　成人看護学②（医学書院） 系統看護学講座　循環器　成人看護学③（医学書院） ゴードン看護診断マニュアル　（医学書院）

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ	担当講師名	高田　紳吾
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標及び概要	１．手術を受ける患者・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復に向けた看護について学ぶ ２．手術よる身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害に対する援助や手術後の継続的な自己管理に対する援助を学ぶ		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	周手術期の看護 周手術期の特徴と看護の特徴 手術前看護 手術中看護 手術後看護 術後合併症の予防	手術侵襲	講義
2		術前処置　術前訪問	
3		手術室看護	
4		回復の促進　早期離床　ドレーン管理	
5		縫合不全　術後イレウス	
6	開腹術と腹腔鏡手術	開腹術　腹腔鏡下手術	
7	食道癌患者の看護	集学的治療	
8	大腸癌患者の看護	排便コントロール	
9	人工肛門造設患者の看護	ストマ　ボディイメージ	
10	胃癌患者の看護（看護過程） 発症から社会生活復帰までの過程における看護を展開する	術後合併症 ダンピング症候群 早期離床 食事指導	演習
11			
12			
13			
14			
15			

評価方法	筆記試験　70点　　レポート　30点
教科書	系統看護学講座　成人看護学　消化器（医学書院） 系統看護学講座　臨床外科看護総論（医学書院） ゴードン　看護診断マニュアル（医学書院）

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ	担当講師名	①名倉　真砂美 ②市川　裕美
開講時期	2 年次前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標及び概要	1. 慢性疾患など生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知りその状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ		

回	授業内容	キーワード	備考
1	慢性病と慢性病をもつ人の特徴	慢性病の特徴 慢性病をもつ人の特徴	講義 演習 （名倉）
2	慢性病とともに生きる人を支える看護	対象理解とセルフマネジメント支援 自己効力感　エンパワメント	
3	内部環境調節機能障害のある患者の看護①（肝機能障害）	肝臓の機能と肝機能障害の看護	
4		肝臓病の治療と看護①	
5		肝臓病の治療と看護②	
6	内部環境調節機能障害のある患者の看護② （代謝機能障害・糖尿病）	糖尿病の治療と看護①	
7		糖尿病の治療と看護②	
8		糖尿病患者の看護 事例患者の看護過程の展開①	
9		糖尿病患者の看護 事例患者の看護過程の展開②	
10		糖尿病患者の看護 事例患者の看護過程の展開③	
11		糖尿病患者の看護 事例患者の看護過程の展開④自己血糖測定	
12	内部環境調節機能障害のある患者の看護③（甲状腺機能障害）	甲状腺機能異常の治療と看護	
13	内部環境調節機能障害のある患者の看護④（腎不全）	急性腎不全の症状と看護	
14		慢性腎不全の症状と看護	講義 （市川）
15		病期に応じた腎不全の看護	

評価方法	筆記試験（配点：①80 点　②10 点）　　レポート（①10 点）
教科書	系統看護学講座　成人看護学①　成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学⑤　消化器（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学⑥　内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学⑧　腎泌尿器（医学書院） ゴードン看護診断マニュアル　（医学書院）

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>成人看護学方法論Ⅳ</td><td>担当講師名</td><td>①高田　紳吾　②村上　巌</td></tr>
<tr><td>開講時期</td><td>2 年次　後期</td><td>単位及び時間数</td><td>1 単位　30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の目標
及び概要</td><td colspan="3">1. リハビリテーション期における患者の身体的、心理的、社会的な側面について学ぶ
2. 疾患によって起こる患者の症状や、看護について学ぶ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回</th><th>授業内容</th><th>キーワード</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>1</td><td>リハビリテーション期の概念と特徴</td><td>国際生活機能分類</td><td rowspan="5">講義
DVD
GW
学内演習</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="4">脳・神経系の疾患をもつ
リハビリテーション期患者の看護
（事例で考える/脳血管疾患・脊髄損傷患者）</td><td rowspan="8">ADL、自立、セルフケアの再獲得
残存機能、生活の再構築
廃用症候群の予防
居住環境、補助具
心理的葛藤
多職種連携、社会資源の活用
障害のある人の余暇活動</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="3">脳・神経系の症状・障害をもつ
リハビリテーション期患者の看護</td><td rowspan="3">講義
GW
学内演習</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td>排泄機能障害の治療と看護①</td><td>1. 膀胱癌、前立腺肥大
2. TUR-BT
3. 尿路再建術と管理への支援</td><td rowspan="2">講義
（村上講師）</td></tr>
<tr><td>10</td><td>排泄機能障害の疾患と看護②</td><td>1. 大腸癌
2. 人工肛門造設術と管理への支援</td></tr>
<tr><td>11</td><td>視覚障害のある患者の看護</td><td>生活への影響</td><td rowspan="5">講義
GW
DVD
発表</td></tr>
<tr><td>12</td><td>生殖機能障害のある患者の看護</td><td></td></tr>
<tr><td>13</td><td>乳がん患者の看護</td><td>リンパ浮腫　手術後の生活</td></tr>
<tr><td>14</td><td>乳がん手術後の合併症予防①</td><td>乳がん手術後のリハビリテーション</td></tr>
<tr><td>15</td><td>乳がん手術後の合併症予防②</td><td>パンフレット　生活指導</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>評価方法</td><td>筆記試験　配点①90 点　②10 点</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>系統別看護学講座　成人看護学⑦　脳・神経　（医学書院）
系統別看護学講座　成人看護学⑧　腎・泌尿器　（医学書院）
系統別看護学講座　成人看護学⑨　女性生殖器　（医学書院）
系統別看護学講座　成人看護学⑬　眼　（医学書院）</td></tr>
</table>

授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ	担当講師名	①名倉　真砂美 ②神崎　美和 ③野尻　由紀
対象学生	２年次　後期	単位及び時間数	１単位　30 時間
授業の目標及び概要	１．がん患者の全人的苦痛を理解し、治療に応じた看護と、症状が及ぼす苦痛の看護について学ぶ ２．疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ		

回	授業内容	キーワード	担当
1	緩和ケアとは何か	緩和ケア	神崎
2	全人的苦痛と QOL	全人的苦痛（トータルペイン） 死への過程　望ましい死	
3	緩和ケアにおける看護師の役割	緩和ケアを患者・家族に提供する方法 看護師の役割	
4	臨死期のケア	見取りのケア　グリーフケア	
5	症状マネジメントとケア①	QOL の向上とケア 疼痛を持つ患者へのケア 呼吸器症状を持つ患者へのケア 倦怠感のある患者へのケア 浮腫のある患者へのケア 消化器症状を持つ患者へのケア	
6	症状マネジメントとケア②		
7	症状マネジメントとケア③		
8	がん薬物療法と看護①	がん薬物療法における看護師の役割 がん薬物療法に伴う症状緩和	野尻
9	がん薬物療法と看護②	患者教育　患者・家族の意思決定支援 療養生活支援	
10	アレルギー疾患患者の看護	免疫反応とアレルギー 自己免疫疾患（関節リウマチ、膠原病）	名倉
11			
12	造血器疾患患者の看護	化学療法　集学的療法 放射線治療　化学療法　手術療法　等	
13			
14	感染症患者の看護	HIV、AIDS、日和見感染 感染予防行動	
15			

評価方法	筆記試験　配点：①45 点　②45 点　③10 点
教科書	系統看護学講座　成人看護学④　血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学⑪　アレルギー・膠原病・感染症（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学⑫　皮膚（医学書院） ナーシンググラフィカ　緩和ケア　（メディカ出版）

授業科目名	老年看護学概論	担当講師名	東浦　龍至
開講時期	2 年次　　前期	単位及び時間数	1 単位　　30 時間
授業の目標 及び概要	一人ひとりの高齢者が、どのような健康状態にあっても、その人らしく生きることを支える看護について学ぶ １．　高齢者を取り巻く社会の動向を理解する ２．　高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する ３．　加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について理解する ４．　多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する ５．　看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる		

回数	内容	キーワード	備考
1	老年看護の特徴・高齢者のイメージ	理論と概念	講義・演習
2	高齢者が生きてきた時代背景	超高齢社会の統計的輪郭 日本史、生活史 保健医療福祉制度 介護予防、ヘルスプロモーション エイジズム、アドボカシー	講義
3	多様な高齢者について（事例）		グループワーク
4	多様な高齢者について（事例）		発表会
5	生理的変化と病的変化		講義
6	心理・社会・霊的変化		講義
7	高齢者のライフサイクル・発達課題		講義
8	身体的機能変化と日常生活への影響	呼吸・循環	講義
9	身体的機能変化と日常生活への影響	消化器・脳神経	講義
10	身体的機能変化と日常生活への影響	筋骨系・免疫	講義
11	身体的機能変化と日常生活への影響	皮膚・内分泌	講義
12	高齢者の権利擁護		講義
13	高齢者虐待について		講義
14	身体拘束について		講義
15	老年看護の役割について		講義

評価方法	筆記試験（８０点）・演習レポート（20 点）合計 100 点
教科書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ	担当講師名	東浦　龍至　山内　恵美
開講時期	2 年次　　前期	単位及び時間数	1 単位　　30 時間
授業の目標及び概要	さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1. 高齢者に特有な健康障害を理解する 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する 3. 高齢者を看護する留意点について理解を深める		

回数	内容	キーワード	備考
1	老年看護について	DVD 学習	東浦
2	高齢者が発症しやすい疾患	加齢と疾患の関係	
3	老年症候群	ADL 低下に合併する症候（転倒、嚥下障害、フレイル）	
4	高齢者に多い疾患	脱水について	
5		脱水を起こした高齢者の看護	
6		嚥下障害について	
7		嚥下障害と看護	
8		心不全の看護	
9		脳梗塞・誤嚥性肺炎	
10		脳卒中について	
11	認知機能の障害	認知ケアについての歴史	山内
12		認知症の病態・診断・治療・予防について	
13		うつとせん妄の違いについて	
14		認知症ケア　事例検討　アセスメントについて	
15		認知症ケア　事例検討　環境アセスメント	

評価方法	筆記試験 100 点（東浦　60 点　　山内　40 点）
教科書	系統看護講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 系統看護講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ	担当講師名	東浦　龍至
開講時期	2 年次　後期	単位及び時間数	1 単位　　30 時間
授業の目標 及び概要	さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ １．高齢者の日常生活を支える看護について理解する ２．さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護を理解する		

回数	講義内容	キーワード	備考
1	高齢者の特徴	フレイル	講義
2	高齢者のフィジカルアセスメント	高齢者総合的機能評価	講義
3	高齢者擬似体験	加齢現象、安全、安楽	演習、個人ワーク、グループワーク
4			
5	治療を必要とする高齢者の看護	薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
6	治療を必要とする高齢者の看護	手術療法について（術後合併症・早期離床）	講義
7	治療を必要とする高齢者の看護	コンプライアンス・アドヒアランス	講義
8	治療を必要とする高齢者の看護	手術療法を受ける高齢者の看護	講義
9	経過別看護	終末期のケア（悲嘆・意思決定）	講義
10	経過別看護	エンドオブライフについて	講義
11	生活行動のための看護技術	栄養・食事介助	講義
12	生活行動のための看護技術	咀嚼・嚥下・誤嚥	講義
13	生活行動のための看護技術	排泄	講義
14	生活行動のための看護技術	移乗・移動	講義
15	生活行動のための看護技術	睡眠	講義

評価方法	筆記試験（60 点）・課題レポート（20 点）・演習内容（疑似体験 20 点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）

授業科目名	老年看護学方法論Ⅲ	担当講師名	東浦　龍至
開講時期	2 年次　後期	単位及び時間数	1 単位　16 時間
授業の目標及び概要	紙上事例を基に、さまざまな健康状態、受療状況にある高齢者に対して必要な看護が展開できる基礎的能力を習得する		

回数	授業内容	キーワード	備考
1	疾患の学習	疾患と看護の理解	個人ワーク・グループワーク
2	看護とアセスメントの視点	健康レベルに応じた看護・ゴードンの１１項目	
3	アセスメント	情報整理、分析、エビデンス、看護の方向性	
4	看護診断	診断名、関連因子、目標、計画内容との整合性	
5	看護計画		
6	看護計画の実施	対象者の身体状況のアセスメント・看護計画の妥当性	
7	プログレスノート	看護計画との整合性、エビデンス	
8	リフレクション	アセスメント～看護計画までの追加・修正	

評価方法	課題レポート 60 点・疾患学習 20 点・事前学習 20 点
教科書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）

授業科目名	小児看護学概論	担当講師名	遠田有利
開講時期	2 年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標及び概要	小児の特徴及び社会の動向を知り、子どもと家族の権利を擁護する小児看護のあり方について学ぶ。 ①　小児看護の意義・役割・機能が述べられる ②　小児の特徴と各期の成長・発達について述べられる ③　小児保健の動向と保健対策の概要を知り、看護の役割と機能が述べられる ④　子どもと家族の最善の利益を目指した看護を考えることができる		

	授業内容	キーワード	備考
1	小児看護の特徴と理念 ・小児看護の対象・看護の目的と役割・小児看護の変遷	子どもとは インフォームドアセント	
2	小児と家族の諸統計 ・人口構造・出生・家族形態・子どもの死亡	少子高齢化 人口減少傾向	国民衛生の動向
3	子どもの成長と発達　・定義と原則・影響因子・成長の評価	発達の原則	
4	身体計測　（身長・体重・胸囲・腹囲）	発達評価	演習
5	小児看護に関与する主な理論 ・エリクソン　・ピアジェ　・ボウルビーなど	社会性の発達・認知機能の発達・母子関係	
6	新生児期の特徴と看護 ・身体生理の特徴　・形態的・各機能の発達	胎児循環 原始反射	
7	乳児期の特徴と看護 ・睡眠　・排泄　・離乳食	サーカディアンリズム 離乳	
8 9	幼児期の特徴と看護 ・遊び　・コミュニケーション　・排泄の自立	社会性（情緒の分化含） 認知機能　言葉の発達 ﾄｲﾚｯﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	
10	学童期の特徴と看護 ・社会性の発達　・栄養	ギャングエイジ 食育	
11	思春期の特徴と看護 ・自我と第二次性徴	第二次性徴・心理的離乳・アイデンティティ	
12	家族の特徴　・子どもにとっての家族とは ・現代家族の特徴とアセスメント	家族の多様性	
13	子どもと家族を取り巻く社会① ・児童福祉法・母子保健法・予防接種法		国民衛生の動向
14	子どもと家族を取り巻く社会② ・学校保健安全法・特別支援教育・臓器移植法		国民衛生の動向
15	まとめ		

評価方法	筆記試験（小テストを含む）　100%
教科書	系統看護学講座　小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向 写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）

授業科目名	小児看護方法論Ⅰ	担当講師名	藤岡　弘季
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	小児疾患の基本について理解する。 小児疾患の基本的な病態について理解し説明する。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	染色体異常・先天異常・遺伝子の問題	遺伝的な疾患・代謝疾患について	
2	新生児	正常新生児とその異常について	
3	内分泌疾患	低身長その他の疾患	
4	免疫疾患・血液疾患	非腫瘍性血液疾患・免疫異常	
5	感染症	感染性疾患について	
6	呼吸・循環器系疾患	先天精神疾患と呼吸器疾患	
7	消化器疾患	消化管に関する疾患	
8	悪性新生物	悪性腫瘍その他	
9	腎泌尿器疾患	尿路の疾患	
10	神経疾患	神経の疾患	
11	運動器疾患	骨や筋肉の疾患	
12	皮膚疾患	皮膚に関する疾患	
13	感覚器	目や耳の疾患	
14	精神疾患	精神疾患・発達障害	
15	事故・外傷		

評価方法	授業中の発表等平常点（３０％）、期末試験（７０％）で評価する。
教科書	系統看護学講座　小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座　小児臨床看護各論（医学書院）

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ	担当講師名	遠田有利
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位　30時間
授業の目標及び概要	①病気や入院による子どもとその家族に及ぼす影響と看護について理解することができる ②小児の疾患について、小児の特徴を踏まえて理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる ③子どもに起こりやすい症状について、それぞれの状態に応じた看護援助の方法を考えることができる ④医療安全の観点から小児の発達課題に伴うリスクについて考えることができる		

	授業内容	キーワード	備考
1	健康障害をもつ子どもとその家族への看護	ICFモデル	GW
2	快適な病院環境に向けての看護　① 特徴、機能、看護、環境、安全、感染防止	サークルベッド 啓発ポスター作成	GW
3	快適な病院環境に向けての看護　②		発表
4	子どもに特有な症状のアセスメントと看護　① （呼吸器疾患を持つ児と家族の看護） 事例を使用し、関連図作成　必要な看護を考える	RSウイルス肺炎	事例 GW
5	子どもに特有な症状のアセスメントと看護　② （呼吸器疾患を持つ児と家族の看護）		GW
6	子どもに特有な症状のアセスメントと看護　③ （呼吸器疾患を持つ児と家族の看護）		発表
7	子どもに特有な症状のアセスメントと看護　①（消化器疾患を持つ児と家族の看護） 事例を使用し、必要なアセスメントと看護を考える	ロタウイルス感染症	GW
8	子どもに特有な症状のアセスメントと看護　② （消化器疾患を持つ児と家族の看護）		GW
9	感染症と隔離について	隔離　スタンダードプリコーション	講義
10	活動制限・運動制限のある児と家族への看護 活動制限の目的とケアの基本	上腕骨顆上骨折、安静	ワーク ケアプラン作成
11	小児に必要な看護技術	プレパレーション	GW　指導案作成
12	小児に必要な看護技術	プレパレーション	作成→発表
13	救急看護　　熱傷　外傷　異物誤飲　虐待　など	救急蘇生	講義
14 15	小児に必要な看護技術Ⅲ グループ演習　バイタルサイン測定　沐浴等	手順書	実習室演習

評価方法	筆記試験　80%　授業参加度5%　発表15%
教科書	系統看護学講座　小児臨床看護総論・小児臨床看護各論　　（医学書院） 写真でわかる小児看護技術アドバンス（インターメディカ）

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>小児看護学方法論Ⅲ</td><td>担当講師名</td><td>遠田有利</td></tr>
<tr><td>開講時期</td><td>2 年次後期</td><td>単位及び時間数</td><td>1 単位　16 時間</td></tr>
<tr><td>授業の目標及び概要</td><td colspan="3">１．小児期にある健康障害を持つ対象を理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる能力を身につける
①疾患・治療が及ぼす影響を最小限にし、成長・発達を促す援助を考えることができる
②患児及び家族への生活指導に対して、計画的・実践的な援助を考えることができる</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">授業内容</th><th>キーワード</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>1</td><td>小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
看護実践するために必要なデータベースを見いだす
（データの整理）</td><td>情報の整理</td><td rowspan="8">個人ワーク

各講義終了後、指定日時までに課題提出。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>②③小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
対象を表しているデータを解釈・判断・推論し、対象を知り理解するために必要なことを明確にする</td><td>アセスメント</td></tr>
<tr><td>3</td><td>同上</td><td>アセスメント</td></tr>
<tr><td>4</td><td>④小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
対象に必要な看護が見いだす</td><td>看護診断立案
目標設定</td></tr>
<tr><td>5</td><td>⑤小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
対象に必要な看護が見いだす</td><td>看護計画内容立案</td></tr>
<tr><td>6</td><td>⑥小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
現在の健康状態をしり、日々のアセスメントができ、看護の方向性を見出すことができる</td><td>フローシート</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="2">⑦⑧小児看護学における看護過程の展開を学ぶ
退院に必要な看護指導を実施する（紙面）</td><td rowspan="2">評価・退院指導案作成</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>評価方法</td><td>レポート点 100%（講義参加度、積極性も含む）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>系統看護学講座　小児看護学概論　小児臨床看護総論　（医学書院）
系統看護学講座　小児臨床看護各論　（医学書院）
写真でわかる小児看護技術　（インターメディカ）</td></tr>
</table>

授業科目名	母性看護学概論	担当講師名	木村　一美
開講時期	2 年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標及び概要	１．リプロダクティブ・ヘルスの基礎（概念、整理、倫理、法・制度）や動向および看護の基本的な知識を学ぶ。 ２．女性のライフサイクル各期における健康課題を理解し、ウィメンズヘルスに関する看護の基本的な知識を学ぶ		

回	授業内容	キーワード
1	母性看護とは セクシャリティ（人間の性）	母性看護の理念、母性看護の役割 母性、父性、親性　母子相互作用
2	母性看護の歴史的変遷と現状 母子保健の動向	ジェンダー、セクシャリティ、性の多様性
3	母性看護における法律、施策	母子保健統計　子育て支援施策 母子保健法、母体保護法、育児休業法、
4		
5	リプロダクティブヘルスケア	ウィメンズヘルスライツ、女性の健康 DV,　性感染症、喫煙、飲酒、
6		
7	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	月経機能の調節機序、卵巣の周期的変化、 性周期における変化、卵胞の発育
8		
9	女性のライフサイクルにおける健康①（思春期～青年期）	ヘルスプロモーション、セルフケア、 月経異常、
10	女性のライフサイクルにおける健康②（成熟期）	家族計画、妊娠・分娩・出産
11	女性のライフサイクルにおける健康③（更年期・老年期）	更年期症状、閉経
12	母性看護に関する理論	ウエルネスの視点、早期接触、母子相互作用
13	母性看護における倫理的問題　①	不妊治療、出生前診断、
14	母性看護における倫理的問題　②	死産、グリーフケア、人工妊娠中絶
15	まとめ	

評価方法	配点：筆記試験 80%　授業の参加度およびレポート課題 20%
教科書	系統看護学講座　母性看護学①　母性看護学概論　（医学書院） 系統看護学講座　母性看護学②　母性看護学各論　（医学書院） 国民衛生の動向

授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ	担当講師名	岡田禎子
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1単位　30時間
授業の目標及び概要	1. マタニティサイクル（妊娠、分娩、産褥、新生児期）の正常及び異常経過について理解する 2. ライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康と健康障害について理解する		

回	授業内容	キーワード	備考
1	妊娠期の身体のしくみ	妊娠の定義、妊娠のメカニズム、精子、受精、着床胎児の成長と発育	講義
2	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠、超音波断層法、胎児 well-being	講義
3	妊婦と胎児にみられる異常①	妊娠悪阻、流産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、過期妊娠、多胎妊娠、妊娠糖尿病	講義
4	妊婦と胎児にみられる異常②	胎児の形態異常、胎児の発育異常、胎児付属物の異常	講義
5	分娩期の身体のしくみ	分娩開始、分娩の3要素、分娩のメカニズム	講義
6	分娩の経過	正常分娩の経過	
7	分娩の異常（難産）	無痛分娩、微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、胎児機能不全	講義
8	産褥期の身体のしくみ 産褥の経過	子宮復古、悪露、後陣痛、乳汁分泌の生理	講義
9	褥婦にみられる異常	子宮復古不全、産褥熱、血栓性静脈炎、乳腺炎	講義
10	新生児の身体のしくみ 子宮外環境への適応	子宮外適応、呼吸の確立、胎児循環、新生児の体温調節、嘔吐と溢乳、新生児の覚醒と睡眠	講義
11	新生児にみられる異常①	低出生体重児、一過性多呼吸、動脈管開存症、双胎間輸血、	講義
12	新生児にみられる異常②	低血糖、鎖肛、高ビリルビン血症、先天性風疹症候群、成人T細胞白血病、先天性代謝異常マススクリーニング、分娩外傷	講義
13	褥婦の心理的社会的な変化、母親に起こりやすい心の病理	母性性の変化、マタニティブルーと気分障害、不安障害	講義
14	遺伝相談、出生前診断	遺伝相談 出生前診断の意義と概要	講義
15	不妊治療と看護	不妊の原因、検査、治療と看護	講義

評価方法	筆記試験
教科書	系統看護学講座　母性看護学②　母性看護学各論　（医学書院）

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ	担当講師名	岡田禎子
開講時期	2 年次　後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標および概要	1. マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥および新生児期）の特性について理解する 2. マタニティサイクルにある母子が健康的な生活を送るために必要な看護について理解する		

回	授業内容	キーワード
1	妊婦と胎児のアセスメント （ウエルネスの視点）	妊婦健康診査、分娩予定日、超音波検査、母子健康手帳、妊婦の心理、レオポルド触診法、子宮底、腹囲測定、NST
2	妊婦の保健指導の実際	妊娠各期の保健指導、マイナートラブル、 妊娠中の食生活、バースプラン、小集団指導、個別指導
3	妊娠期の異常と看護	妊娠悪阻、流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠貧血、血液型不適合妊娠、双胎間輸血症候群
4	産婦と胎児の健康状態のアセスメント （ウエルネスの視点）	分娩の 3 要素、分娩機転、ビショップスコア、フリードマン曲線、パルトグラム、CTG
5	母子の健康を保つための看護 分娩第 1 期から 4 期の看護	分娩所要時間、陣痛周期、産痛緩和、呼吸法、LDR
6	分娩期の異常と看護 分娩異常と処置、帝王切開術	前期破水、胎児機能不全、弛緩出血、帝王切開、主な産科処置（吸引分娩、会陰切開）
7	褥婦の健康状態のアセスメント （ウエルネスの視点）	子宮復古、悪露、排尿・排便　会陰部痛、乳汁分泌、 ポジショニングとラッチオン　頻回授乳
8	母親役割獲得への援助	褥婦の心理、ルービン、バースレビュー、マタニティーブルー、産後うつ病
9	胎外生活適応へ向けての看護	アプガースコア、呼吸の確立、生理的体重減少、生理的黄疸
10	新生児の健康状態とアセスメント （ウエルネスの視点）	新生児の看護の原則、保育環境、ドライケア、自律授乳
11	母性看護に必要な基礎的援助技術	新生児の観察、沐浴、ドライケア
12	新生児期の異常と看護	子宮復古不全、産褥熱、貧血、乳腺炎、産後うつ
13	産褥期の異常と看護	高ビリルビン血症、低出生体重児、死産、先天性奇形
14 15	技術演習	妊婦の子宮底測定、レオポルド触診、胎児心音聴取、 NST、新生児のバイタルサイン測定、沐浴、新生児の衣類の着せ方脱がせ方、おむつ交換、授乳介助、ボトル授乳、産褥の子宮底の測定、胎盤計測

評価方法	筆記試験 80%、レポート課題・授業の参加度・出席状況 20%
教科書	系統看護学講座　母性看護学②　母性看護学各論　（医学書院） 根拠と事故防止から見た母性看護技術　（医学書院）

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>母性看護学方法論Ⅲ</td><td>担当講師名</td><td>木村　一美</td></tr>
<tr><td>対象学生</td><td>2 年次　後期</td><td>単位及び時間数</td><td>1 単位　16 時間</td></tr>
<tr><td>授業の目標
及び概要</td><td colspan="3">妊･産･褥婦および新生児の正常経過を理解したうえで、対象に必要な看護を展開するために必要となる基本的なアセスメント能力を養う</td></tr>
<tr><td>回</td><td>授業内容</td><td colspan="2">キーワード</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="2">正常経過をたどっている妊婦のアセスメント</td><td colspan="2" rowspan="2">子宮底長、血圧、体重、Hb、NST
胎児推定体重、マイナートラブル</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td><td>正常経過をたどっている産婦のアセスメント</td><td colspan="2">破水の種類、子宮口開大、産痛緩和、
分娩所要時間、分娩時出血量</td></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="2">正常経過をたどっている新生児のアセスメント</td><td colspan="2" rowspan="2">生理的体重減少、生理的黄疸、
胎便、移行便、経日変化</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">正常経過をたどっている褥婦のアセスメント</td><td colspan="2" rowspan="2">退行性変化、進行性変化、
母親役割獲得過程、母乳育児支援</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td>母乳育児支援の看護計画の作成</td><td colspan="2">ポジショニング、ラッチオン</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">レポート課題、ワークへの取り組み姿勢</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">系統看護学講座　母性看護学②　母性看護学各論　　（医学書院）
根拠と事故防止から見た母性看護技術　第３版　（医学書院）
マタニティ診断ガイドブック 第６版 （医学書院）</td></tr>
</table>

授業科目名	精神看護学概論	担当講師名	増田　明
開講時期	2 年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	こころの健康とは何か、こころが病むとはどういうことなのか、これらを学習することで広く人間を理解することを探求する。さらに、精神看護領域における基本的援助技術及び看護場面における介入の裏付けとなる対人関係論について学習する。また、精神保健福祉制度の歴史的変遷及び関連法規についての理解を深め、最近の動向を踏まえて精神科看護のあり方を探求し、実践能力の向上を図る。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	イントロダクション		講義
2	精神障害を題材とした映画鑑賞、説明	自閉症スペクトラム障害	DVD
3	精神看護学で学ぶこと	精神障害者の現状	講義
4	精神保健の考え方	ストレスマネジメント、予防概念	講義
5	心のはたらき	IQ、心の理論	講義
6	心のしくみと人格形成	防衛機制、アイデンティティ	講義
7	甘えの理論	無意識、基本的信頼、愛着	講義
8	関係のなかの人間	IP,家族、感情表出	講義
9	精神障害と治療の歴史	欧米の治療と歴史、ピネル	講義
10	日本の精神保健福祉	私宅監置、クラーク勧告、 精神医療福祉の改革ビジョン	講義
11	精神障害と法制度	入院形態、退院請求、その他関連法	講義
12	おもな精神保健医療対策とその動向	自殺対策、依存症対策、認知症対策	講義
13	コミュニケーションスキル	SBACS	講義
14	プロセスレコード	幻覚妄想	GW
15	まとめ		講義

評価方法	平常点 50 点　筆記試験 50 点
教科書	系統看護学講座　精神看護学　精神看護の基礎　(医学書院) (参考書)土居健朗『甘えの構造』弘文堂 2005

授業科目名	精神看護学方法論　Ⅰ	担当講師名	岩瀬　綽子
開講時期	2年次　前期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	精神科の医療機関のみならず、幅広い分野で知識を生かせるように習得していく。まず基盤となる人権について、その歴史を学び理解を深める。そしてすべての疾患の看護に共通する精神の働きを知るとともに、各精神疾患についてその特徴と知識を学ぶ。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	(1)精神障害と治療の歴史（世界）	ギリシャ時代、魔女裁判、フランス精神医学、近代精神医学、地域精神保健	講義(スライド使用)
2	(2)日本の精神医学・精神医療の流れ (3)パーソナリティと心の諸活動	呉秀三、日本の各種法律 意識、認知、感情、学習と行動、知能	以下同上
3	(3.続き) (4) パーソナリティの発達理論	心理検査 無意識、自我の構造と防衛規制、	
4	(4.続き)	対象関係論、自我同一性、愛着理論	
5	(4.続き) (5)ストレスと心の危機	自己心理学、「甘え」理論 ストレス学説	
6	(5.続き) (6)精神症状論と状態像	危機理論、ストレス理論、心的外傷 思考、感情、意欲の障害	
7	(6.続き) (7)a.精神障害の診断と分類	知覚、意識、記憶の障害 DSM-5、ICD-11	
8	b.各種疾患の症状、成因論、疫学、治療	神経発達症群、統合失調症	
9	〃	気分症群、不安症群、強迫症、ストレス関連症群、解離症群	
10	〃	食行動症又は摂食症群、身体的苦痛症群又は身体的体験症群、物質使用症又は嗜癖行動症＜障害＞群	
11	〃	パーソナリティ症＜障害＞群及び関連特性、神経認知症群	
12	＊精神科関連疾患 (8)精神疾患の治療　　(生物学的)	睡眠・覚醒症群、心身症、てんかん 薬物療法(抗精神病薬)	
13	〃	(抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬 睡眠薬、抗てんかん薬)、ECT	
14	〃　　(精神療法)	個人療法、集団療法	
15	まとめ		

評価方法	筆記試験
教科書	系統看護学講座　精神看護学[I]　精神看護の基礎　(医学書院)

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ	担当講師名	増田　明
開講時期	2年次　後期	単位及び時間数	1 単位　30 時間
授業の目標 及び概要	精神科看護の対象の特性を理解し、こころの健康を維持するため援助と、精神障害者及び家族への援助に必要な基礎的知識を学び、社会資源を活用した地域生活を支えるシステムを探求する。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	イントロダクション		講義
2	精神障害を題材とした映画鑑賞、説明		DVD
3	ケアの人間関係	ケアの原則、パーソナルスペース	講義
4	患者ー看護師関係における感情体験	転移、逆転移、感情の容器	講義
5	回復を支援する	グループの原則	講義
6	リカバリー	エンパワメント、レジリエンス、 ストレングス	講義
7	認知行動療法	SST, CBT	GW
8	地域におけるケアと支援	愛南町、WRAP、ACT、SM、アウトリーチ	講義
9	入院治療の意味	入院形態、入院のデメリット	講義
10	身体をケアする	睡眠障害、m-ECT、排便・足のケア	講義
11	薬物療法を受ける患者のケア	抗精神病薬の有害作用	講義
12	安全を守る	行動制限、自殺、離院	講義
13	リエゾン精神看護	コンサルテーション	講義
14	災害時のメンタルヘルスと看護	DPAT, PFC	講義
15	まとめ		講義

評価方法	平常点 50 点　筆記試験 50 点
教科書	系統看護学講座　精神看護学　精神看護の展開　（医学書院） （参考書）『精神神経疾患ビジュアルブック』学研メディカル秀潤社 2015

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ	担当講師名	増田　明
開講時期	2 年次　後期	単位及び時間数	1単位　16 時間
授業の目標及び概要	個々の事例を通して、精神科看護の対象に必要な自己洞察について学び、こころの問題に直面している対象に必要な看護が展開できる能力を身につける。		

回	授業内容	キーワード	備　考
1	イントロダクション	援助関係の形成、感情活用能力、看護場面の再構成法	講義
2	統合失調症患者の個々の事例の提示	情報整理	演習
3	各事例のセルフケアのアセスメント		演習
4	各事例のセルフケアのアセスメント		演習
5	プロセスレコード、患者の全体像の作成		演習
6	発表原稿、まとめの作成		演習
7	各グループの発表、ロールプレイ前半		発表
8	各グループの発表、ロールプレイ後半 実習に向けての特別講義		発表 講義

評価方法	レポート提出、ロールプレイ:100 点
教科書	系統看護学講座　精神看護学　精神看護の基礎　（医学書院） 系統看護学講座　精神看護学　精神看護の展開　（医学書院）

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当講師	高岡　操　ほか
対象学生	2 年次前期	単位及び時間数	2 単位　90 時間

基礎看護学実習Ⅱ

【実習目的】

1．基礎看護学で習得した基礎看護技術を用い、一連の看護過程に沿って対象の看護が展開できる

2．看護学生としての責任と看護職としての倫理について学ぶことができる

【実習目標】

1．対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる

2．対象に必要な看護が実践できる

3．対象者と援助的関係を構築することができる

4．看護者としての倫理、実践する者としての責任を自覚し、看護学生として基本的な実習態度を身につけることができる

授業科目名	成人看護学実習	担当講師	高田　紳吾　ほか
対象学生	2 年次後期～3 年次	単位及び時間数	6 単位　270 時間

成人看護学実習Ⅰ

【実習目的】

慢性的な健康障害及び身体機能の変調のある対象を理解し、対象の自己管理に向けた看護・セルフケアの自立に向けた看護を実践する基礎的能力を養う

【実習目標】

１．健康障害及び身体機能の変調により慢性的な経過をたどる対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる

２．慢性的な経過をたどる対象に向けた看護が実践できる

３．継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考えることができる

４．実践内容を踏まえ慢性的な経過をたどる対象に向けた看護を考えることができる

成人看護学実習Ⅱ

【実習目的】

手術を受ける及び生命の危機的状況にある対象を理解し、周手術期における看護・生命の危機的状況における看護を実践できる基礎能力を養う

【実習目標】

１．急激な健康状態の変化がある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる

２．急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護が実践できる

３．継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考えることができる

４．実践内容を踏まえ急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護を考えることができる

成人看護学実習Ⅲ

【実習目的】

終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を理解し、終末期における看護（苦痛緩和に向けた看護）を実践できる基礎的能力を養う

【実習目標】

１．終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を身体的・心理的・社会的・霊的側面から全人的に理解することができる

２．終末期における（苦痛緩和に向けた）看護が実践できる

３．継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考えることができる

４．実践内容を踏まえ終末期における（苦痛緩和に向けた）看護を考えることができる

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ	担当講師	東浦　龍至
対象学生	2 年次　後期	単位及び時間数	2 単位　90 時間

老年看護学実習Ⅰ

【実習目的】

老年期にある対象を全人的に理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎能力を習得する

【実習目標】※病院実習

１．加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる

２．対象者の入院生活における医療の場の実際と看護を説明できる

３．対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる

【実習目標】※白寿苑実習

１．加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる

２．対象者の生活の場、療養の場の実際と看護を説明できる

３．対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる